



原因菌が局所にとどまらず、血行性に散布された場合に敗血症を生じうる。敗血症では、菌塊による血栓形成や、各種サイトカインを介する免疫反応によって敗血症性血管炎 (septic vasculitis) を引き起こし、紅斑や紫斑、血疱、膿疱などを形成することがある。急激に紫斑が拡大して壊疽を呈する電撃性紫斑 (purpura fulminans, 図 24.19) を生じることもある。

オスラー

7. Osler 結節 Osler's node

主に亜急性感染性心内膜炎 (subacute infective endocarditis) に併発する。指趾掌蹼に生じる紅斑や紅色丘疹 (図 24.20)。疼痛が先行し、数日で褐色斑となって消退する。母指球部や小指球部に生じた無痛性の淡紅色斑を ジェインウェイ Janeway 病変 (Janeway lesion) という。ともに菌血症に起因する皮疹ととらえられ、黄色ブドウ球菌によることが多い。感染性心内膜炎の約 15% の症例に出現するといわれ、診断の手がかりとなる。

図 24.20 Osler 結節 (Osler's node)
手指の有痛性紅斑。

D. その他の特殊な細菌感染症 other bacterial infections

1. 黄菌毛 trichomycosis axillaris

類義語：trichomycosis palmellina, trichomycosis pubis

青年に好発する。腋毛あるいは陰毛に、黄褐色～白色のコロイド状菌塊が固着し、あたかも毛が黄色く膨化したようにみえる (図 24.21)。自覚症状はないが、ときに多汗や悪臭を伴う。主に *Corynebacterium* 属の感染による。ウッド Wood 灯で黄、白、青などの蛍光発色をみる。治療は清潔と消毒、剃毛および抗菌薬外用 (クリンダマイシン, エリスロマイシンなど) を行う。

こうしよくいんせん

2. 紅色陰癬 (エリトラスマ) erythrasma

症状・病因

グラム陽性桿菌 *Corynebacterium minutissimum* の角層への感染による。陰股部や腋窩、第4趾間などの間擦および湿潤部位に好発する。境界明瞭な紅色～紅褐色斑で、表面に薄く細かい鱗屑を付着する。趾間では黄色調の厚い鱗屑を生じる。丘疹や水疱を形成せず、中心治癒傾向をもたない (白癬などとの鑑別点となる)。自覚症状はないが、まれに痒痒感や灼熱感を伴う。

図 24.21 黄菌毛 (trichomycosis axillaris)



図 24.22 点状角質融解症 (pitted keratolysis)

診断・検査

Wood 灯照射により，病変部の一部あるいは全体が紅色〔サング色 (coral red)〕に光る．これは菌が産生するコプロポルフィリンⅢによる．セロテープで剥がした鱗屑をグラム染色して検鏡すると，グラム陽性の短桿菌が観察される．趾間に生じたものについては，足白癬の合併が多いため，KOH 直接検鏡法も行う．

治療

イミダゾール系抗真菌薬外用，エリスロマイシン内服など．

3. 点状角質融解症 pitted keratolysis

Corynebacterium 属などが角質を融解する酵素を産生するために生じる．足底に直径 5mm 程度の陥凹が多発，融合する(図 24.22)．夏季に多汗に関連して発症することが多い．悪臭を伴う．制汗剤やクリンダマイシン外用などが治療として用いられる．

4. 猫ひっかき病

cat-scratch disease, cat-scratch fever ★

グラム陰性桿菌 *Bartonella henselae* 感染症で，若年者に好発する．ネコに咬まれる，舐められる，引っかかる，あるいはノミによる媒介で感染する．数日～2 週間の潜伏期を経て，感染部位に直径 3～5 mm の紅色丘疹や小水疱が出現し，さらに 1～3 週間には所属リンパ節が有痛性に腫脹し，ときに膿瘍化する．発熱や頭痛などの全身症状を伴う場合がある．通常は数週～数か月で自然治癒する．遷延する場合はセフェム系やテトラサイクリン系，マクロライド系などの抗菌薬を内服する．

5. 放線菌症 actinomycosis

症状・分類

病変部位によって，頸部・顔面放線菌症，胸部放線菌症，腹部放線菌症の 3 型に分類されるが，^う嚢菌などを契機に発症し皮膚病変を伴う頸部・顔面放線菌症が約半数を占める．残り 2 型は内臓に病変を有するもので，瘻孔を形成して皮膚に到達しない限り皮膚科で扱われることはない．

ヒトの口腔，扁桃窩，歯垢に常在するグラム陽性桿菌の放線菌（主に *Actinomyces israelii*）が，軽微な外傷などから侵入して皮膚病変を形成する．発赤や腫脹，硬結で始まり，暗赤色

図 24.23 放線菌症 (actinomycosis)
下口唇の小結節．切除部から放射菌が確認された．